活躍の場が広がる女性農業者！
多彩な地域活動を担うリーダーの能力発揮支援

■　東讃管内女性農業者　■

（東讃農業改良普及センター　○西田美晴、宮内潮美）

●対象の概要

東讃管内の農業就業人口に占める女性の割合は50.7%と約半数を占めており、女性農業者は農業経営への参画に加え、起業活動や地産地消活動など女性の視点を活かした取組などにも、積極的に取り組んでいる。

一方、管内で活動する女性起業は46起業あり、多角経営の一つである６次産業化に取り組む起業や地域のイベントに積極的に取り組む起業など様々な活動を行っている。

また、管内には、東讃地区生活研究グループ連絡協議会（29グループ、343名）のほか、高松市、さぬき市、東かがわ市に連絡協議会があり、これらの協議会は、地域農産物の加工や地産地消・食育の推進に積極的に取り組み、地域の活性化に貢献している。

●課題を取り上げた理由

農業従事者の減少と高齢化の進展により、担い手確保の面からも女性農業者の活躍が期待されており、国や県の施策をみても女性農業者の経営参画や活躍推進に重点が置かれるようになってきた。

このような中、管内でも担い手の高齢化は、農業経営のみでなく、地域活動においても大きな課題となっている。中でも農村の女性起業者の年齢は、約８割が60歳以上であり、また、管内の生活研究グループのリーダーは、50歳代から90歳代と幅広く、平均年齢は72歳となっている。

しかしながら、地域のイベントや行事には、多彩な地域活動の担い手として、さらなる活動が期待されている状況である。

これらのことから、地域活動を担うリーダーの能力発揮を支援する課題に取り組むこととした。

●普及活動の経過

１　女性農業者の活躍に関するアンケート

管内の女性農業者33名を対象に、女性農業者の活躍への思いや課題などについて意識調査を行った。

１）農業の魅力

「食べ物を生産するという人間の命に関わる」「自然を相手にする」「自分のペース・裁量でできる」「家族と一緒にできる」との回答が、いずれも51.5%と過半数を占めている。

また、「チャレンジの可能性が大きい」との回答も33.3%となっている。

２）女性農業者の強み

「消費者視点を持つ」が75.8%、「きめ細かな目配りができる」が66.7%となっている。

３）今後、取り組みたい・力を入れたいこと

「経営の効率化」が63.6%、「加工品作り」が36.4%、「生産の規模拡大」が30.3%となっている。

４）女性農業者の活動推進に必要なこと

「女性が働きやすい職場環境の整備」が66.7%と最も高く、次いで「男性農業者の意識改革」が42.4%となっている。

２　生活研究グループ活動の支援

東讃地区生活研究グループ連絡協議会では、男女共同参画による生活向上や地域農林畜水産物の活用と起業活動、地域活性化を図るための人材育成などの課題解決に取り組んでいる。

全国会議香川大会現地研修（ミニ盆栽づくり）

1）全国会議香川大会開催に向けた支援

平成30年11月７日～８日に、かがわ国際会議場などで全国の生活研究グループ員約400名が集い、香川県では初の開催となる全国会議香川大会が実施され、管内の生活研究グループ員85名が一丸となって大会の開催・運営に臨み、全国の仲間と交流を行った。

特に２日目の現地研修は管内を３コースに分け、地域の特色ある農業生産や生活研究グループの取組とともに、全国に誇る産業や郷土料理、名所などを案内し、県外のグループ員にＰＲを行った。

普及センターでは担い手育成部門だけでなく園芸部門の協力を得て、体験活動の支援を行うなど、各市と連携して大会運営を支援するとともに、平成28年度からは実行委員会を立ち上げ、各市連においても検討を繰り返しながら、円滑な大会となるよう継続した支援を行った。

2）地産地消・食育活動への支援

生活研究グループ員が各市において、地域に根差した取組が実践できるよう様々な支援を行った。

高松市生活研究グループ連絡協議会では、高松産ごじまん品の普及・消費拡大や、近年課題となっている獣害被害対策の一翼を担って、ジビエ料理の開発やレシピ集の作成に取り組んだ。

開発したレシピをまとめた冊子

また、さぬき市生活研究グループ連絡協議会では、耕作放棄地対策の一環として桑を市の特産品として普及するため、葉の粉末加工に取り組み、桑粉を商品化し、起業活動に発展させた。

さらに、東かがわ市生活研究グループ連絡協議会では、作り手が減少していた郷土料理の「うずまき餅」の伝承に取り組んだ。地域の児童と古代米を生産し、それを活用した新たな「うずまき餅」を商品化した。さらにはグループで運営する「東かがわ市生活研究グループの店」を立ち上げるなど、地域を巻き込んだ活動を行った。

●普及活動の成果

1　全国会議香川大会を通して、県内外のグループ員相互の交流が図られた。また、運営方法について検討を繰り返し、支援したことにより、役割分担が明確になり、グループ員の主体的な活動がさらに強まった。

2　生活研究グループでの長年の活動が基盤となって、起業化や６次産業化など、多角的な経営に取り組む女性農業者が増えつつある。

3　インバウンドの影響により、郷土料理や地域の伝統行事、農村での体験や宿泊場所の提供などが求められている。生活研究グループ員が今までに培ってきた知恵・技・経験が生かされる機会が増えており、香川県むらの技能伝承士の活動や農業・農村を体験できる民泊経営など、さらに活躍の幅が広がっている。

●今後の普及活動の課題

1　新時代に向けて、これからのグループ活動のあり方などについて検討した結果、「子どもから高齢者に至るまで食育活動を行う」「隠れた地域の食材や特産品を見直す」「和を大切に、グループの体制も再検討し、若い人が取り組みやすい運営を考える」「ジビエなどの活用について検討し、作成したレシピをもとに、その技術を広く普及し、次世代の人達にも繋がる取組を行う」など、今後も多彩な地域活動を担うリーダーとして活動が継続できるよう、活躍の場や支援のあり方を検討する必要がある。

各市連からの意見

2　女性農業者の活躍に関するアンケート結果から、若い女性農業者の思いや課題を反映できる　取組を支援するとともに、今後、地域で活躍する次世代女性リーダーの育成が必要である。